

- 正しい施工をしていただくため、必ずお読みください。
- 施工するには消防設備士(甲種第4類)の資格が必要です。
- 施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱・施工説明書をお渡しください。
- 万一、取扱・施工説明書にしたがわず施工された場合は責任を負い兼ねることがあります。
- 火災などによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

安全上のご注意

■必ずお守りください

警告

- 取り付け、取りはずし、検査時など高所作業となる場合、転倒・落下などの危険があります。足場の確保など安全に作業できるようご注意ください。
- 感知器を落下させたり、衝撃を与えるような取り扱いはいしないでください。故障の原因となります。
- 感電や故障の原因になりますので下記の項目をお守りください。
 - 受信機の電源(AC100V)を切り、バッテリーを取りはずした状態で施工してください。活線工事は感電・故障の原因となります。
- 感知器は取扱・施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えられるようにしっかりと取り付けてください。安易な取り付けは脱落などによりケガの原因になります。
- 商品を分解したり、修理・改造は絶対しないでください。故障の原因となります。

施工上のご注意

- 次のような場所には設置しないでください。(非火災報・故障の原因になります。)

- 雨水のかかる場所。
- 結露する場所。
- 常時、煙や湯気・蒸気などが発生する場所。
- 維持・管理のできない場所。
- 取り付け面が振動したり、ひずみが発生する場所。
- スクリーン・カーテン・照明器具などで光軸がさえぎられる場所。
- 取付場所の温度が-10℃より低く、50℃より高くなる場所。
- 直射日光や水銀灯などの強い光の当たる場所。

■施工時のご注意

- 感知器にキズをつけたり、ペンキなどで塗装しないでください。
- 電線の接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。

電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化不良をおこし、非火災報の原因となります。



- 接続方法に示す機器以外の機器に接続する場合は、当社にご相談ください。不適切な接続は誤動作・故障の原因となります。
- 光軸が約1°以上ずれると発報しますので、取り付けは強固な部分に行ってください。
- 体育館などでボールなどが感知器に当たるおそれがある場合は、プロテクタ(光電式分離型感知器用)(NSY408)(別売)を取り付けてください。

施工後の確認方法

- 感度試験用フィルターによる動作チェックをしてください。
- 消防検査および定期点検時は感度試験用フィルター(光電式分離型感知器用)(別売)で感度チェックを行ってください。

点検方法

作動試験

- 感知器の監視距離・種別に応じたフィルタで受光部前面(10cm以内)の光軸をさえぎり、約30秒以内に確認灯(赤)が点灯し、受信機が動作することを確認します。

不動作試験

- フィルタで光軸をさえぎり、約30秒間感知器が動作しないことを確認します。

■使用フィルター一覧表(数字は減光率(%)を表す。)

点検項目	1種作動	2種作動	不動作
監視距離			
5~10m	30	40	10
10~25m	30	50	10
25~50m	40	60	20
50~100m	60	80	30

※詳細は感度試験用フィルターの
ご使用説明書をご覧ください。

- 確認後は、受信機の復旧スイッチを押し、平常時の状態にしてください。
〔詳細は、受信機の取扱説明書を参照してください。〕

付属品

- 取扱・施工説明書(本紙)1枚
- 取付ネジ(M4×10)(受光部用、送光部用...各4本)8本
- 引っ掛け金具(受光部用、送光部用...各1本)2本
- リモートチェックスイッチ用ラベル1枚

トラブル表示機能について

- 次のような場合、受光部前面のトラブル灯(黄)が点滅します。
(トラブル表示はトラブル要因がなくなると自動的に復旧します。)

- 窓汚れがいちじるしく、清掃の必要がある場合。
- 受光量に異常が発生した場合。
- 徐々に光軸がずれてしまった場合。
- 動作モードを「監視」に切り換えたあと、距離設定を変更した場合。

- トラブル信号を受信機の諸警報表示部などに表示することができます。(オプション)

※受信機が特別仕様になる場合があります。

- 次のような場合、火災信号が出力されます。
 - 光軸がしゃ断された場合。

カバー前面の窓汚れ感度補償機能について

- カバー前面やレンズ・受発光素子の汚れによる誤動作がありません。
- カバー前面の窓汚れがいちじるしくなり、受光量が当初の1/2まで低下した場合、トラブル信号出力を行い清掃時期を知らせます。
- 過去のデータを保存する方式ですので、くん煙火災のように徐々に煙が充満するような火災に対しても失報がありません。

リモートチェック機能について

- リモートチェックスイッチ(別売)を接続すると感知器の感度チェックを行うことができます。リモートチェックスイッチを押すとその時点での受光量を測定し、感知器の感度が正常であれば火災発報を行います。
(リモートチェックスイッチには不用意に操作されないようにフルカラーキー(スイッチ(WN5092)(別売)(パナソニック(株)製)をご使用ください。)
- ※リモートチェックによる感知器の感度試験は法律上定期点検時の点検方法として認められていません。定期点検には感度試験用フィルター(光電式分離型感知器用)(別売)をご使用ください。

清掃方法

- カバー前面が汚れた場合、次の方法でお手入れください。

- カバー前面には、結露防止のために防曇処理を行っています。

●ふだんのおそうじは……

やわらかい布でふき取ってください。

●汚れが目立つときは……

やわらかい布を水に浸し、固く絞ってふき取ってください。

- 防曇処理の劣化がおこり、非火災報の原因となることがありますので洗剤・シンナーなどは、使用しないでください。

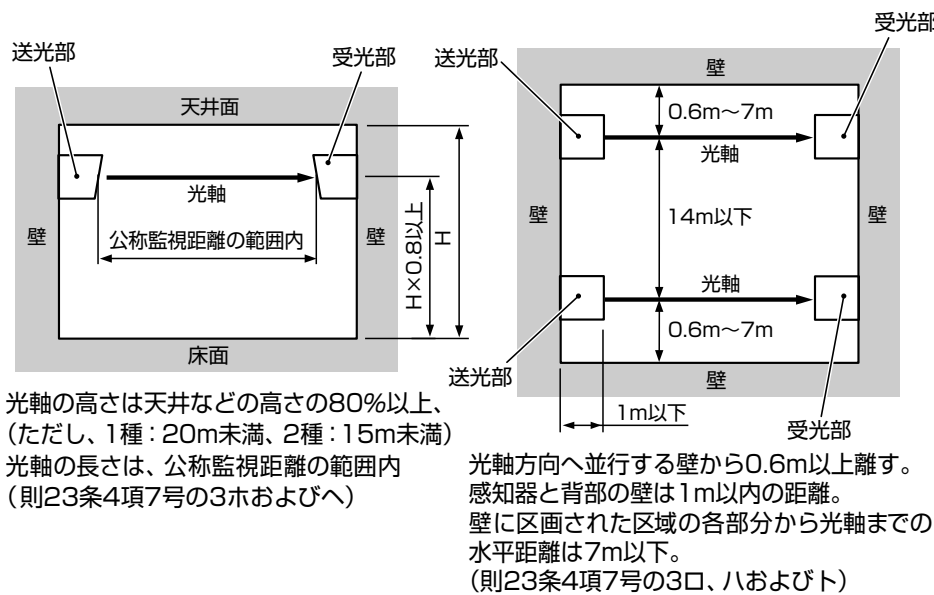


■内部の清掃方法

レンズは **図1** のように引っ掛け部(2カ所)を指で外側に押してミゾにドライバーの先を入れ、レンズをもち上げるとはずれます。レンズの表面は凸凹がありますので、やわらかい布で同心円状にふき取ってください。また、レンズには裏表があります。凸凹面が表ですのでレンズ取り付けの際は間違えないようにしてください。
(レンズを落さないよう注意してください。)

- 清掃後は再度、「取付後の調整・動作確認」をし、カバーを取り付けてください。

設置基準



取付方法

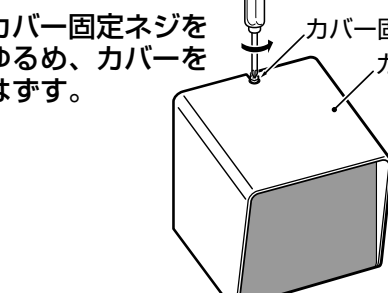
- ボックス、天井取付用金具(光電式分離型感知器用)(NSY407)(別売)は壁面、天井面で振動やひずみを受けにくい、強固な主構造材に取り付けてください。
- 足場の悪い場所での結線作業の場合、引っ掛け金具(付属)で本体を取付板の引っ掛け穴に吊り下げた状態で結線を行ってください。 **図1参照** (結線終了後は、引っ掛け金具を取りはずしてください。)

1 取付位置を決める。 2 入線を行う。 3 ボックスを取り付ける。

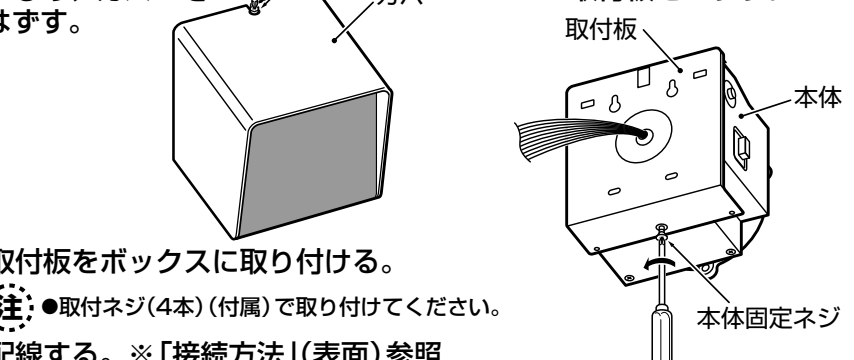
●適合ボックス

壁 取 付	JIS 2コ用スイッチボックス (カバーなし)
	JIS 2コ用スイッチボックス (カバー付)
天 井 取 付	JIS 大型四角アウトレットボックス(スイッチカバー2コ用 塗代付)
	JIS 大型四角コンクリートボックス(スイッチカバー2コ用 塗代付)
	JIS 露出スイッチボックス2コ用
	JIS 丸形露出ボックス(取付ピッチ 73mm または84mm)

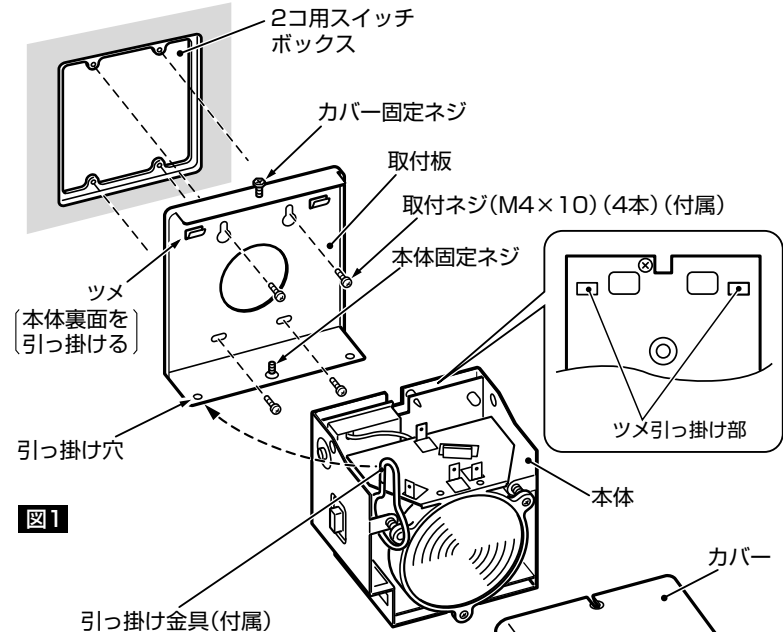
- 4 カバー固定ネジをゆるめ、カバーをはずす。



- 5 本体固定ネジをゆるめ、取付板をはずす。



- 6 取付板をボックスに取り付ける。
●取付ネジ(4本)(付属)で取り付けてください。
- 7 配線する。※「接続方法」(表面) 参照
- 8 取付板のツメを本体のツメ引っ掛け部に挿入し、本体固定ネジをしめる。
- 9 調整および動作確認をする。※「取付後の調整・動作確認」(裏面) 参照

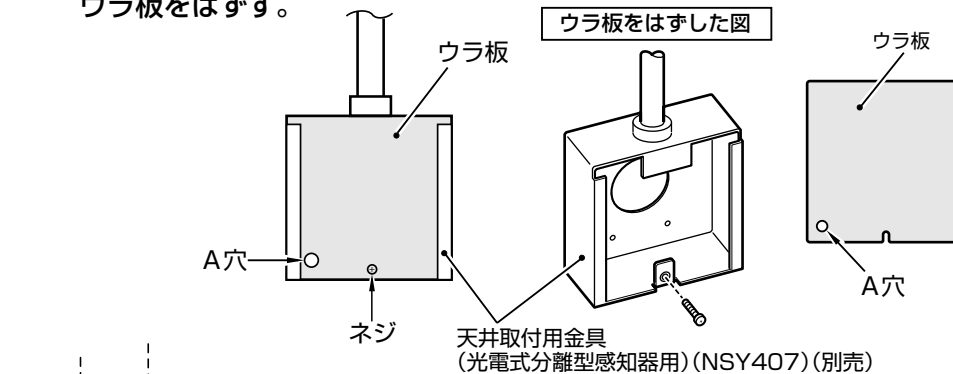


- 足場の悪い場所での結線作業の場合、引っ掛け金具(付属)で本体を取付板の引っ掛け穴に吊り下げた状態で結線を行ってください。
結線終了後は、引っ掛け金具(付属)を取りはずしてください。

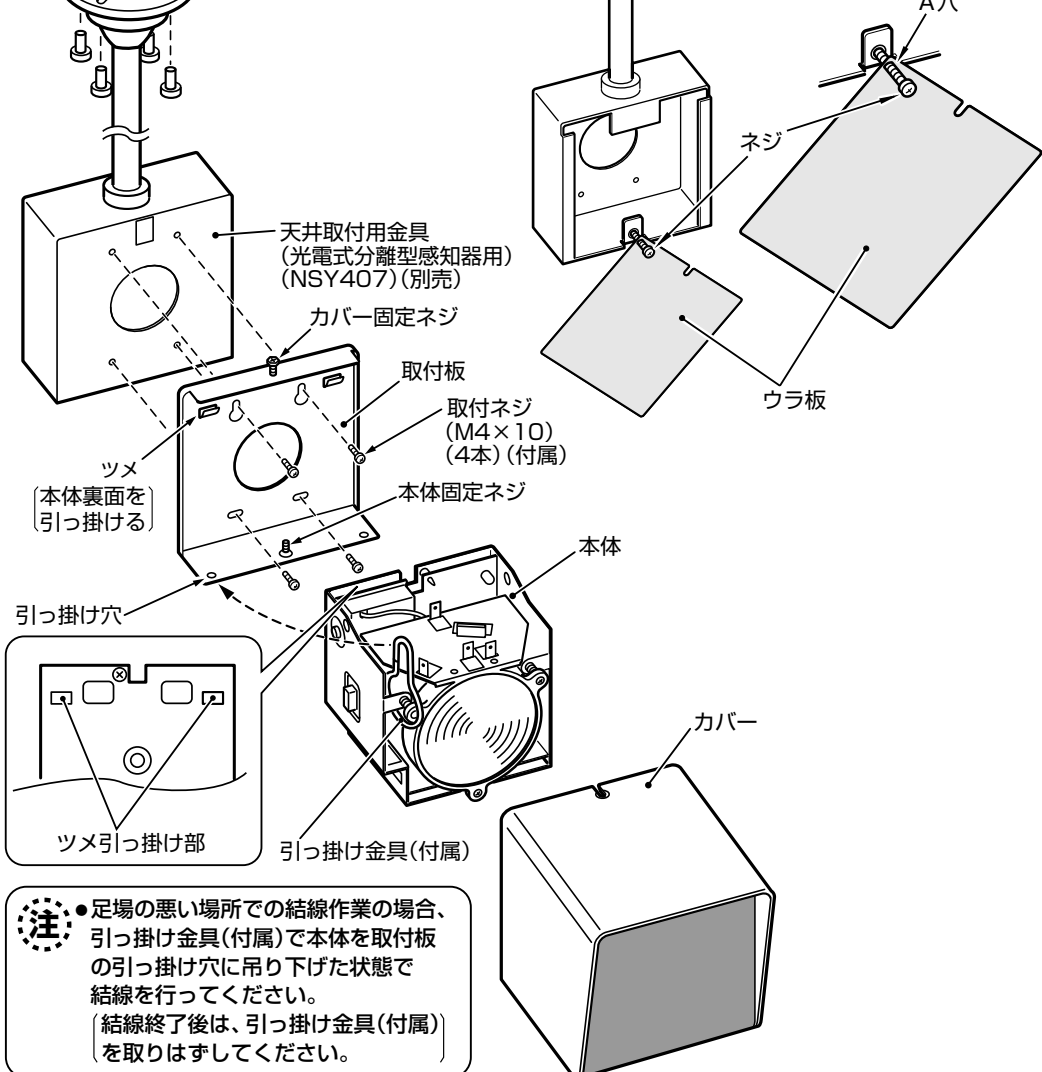
天井へ取り付ける場合

- 天井取付用金具(光電式分離型感知器用)(NSY407)(別売)をご使用ください。

- 1 天井取付金具(光電式分離型感知器用)(NSY407)のネジをゆるめ、ウラ板をはずす。



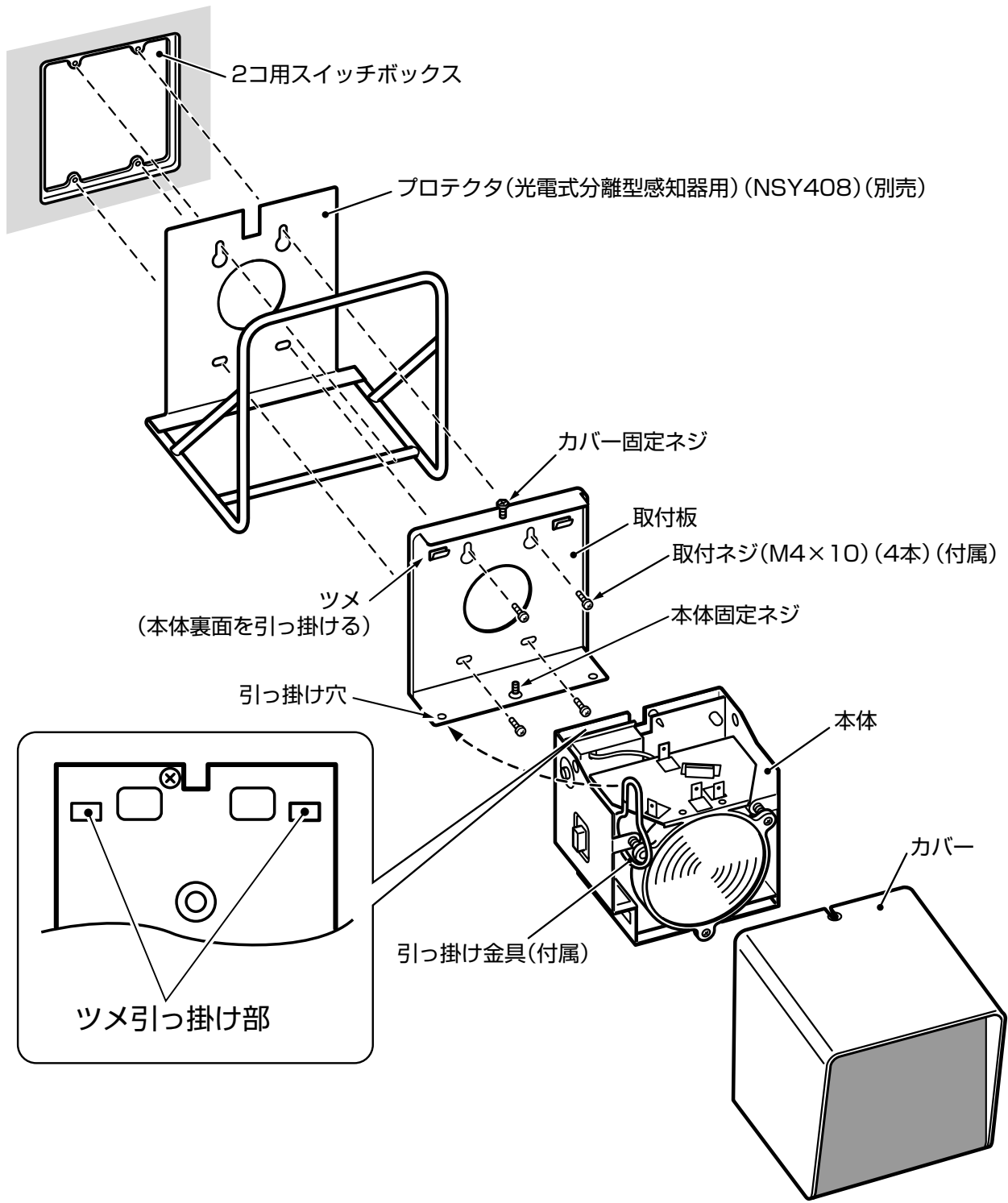
- 2 落下防止のため、ウラ板のA穴をネジに引っ掛けて作業する。



プロテクタの取付方法

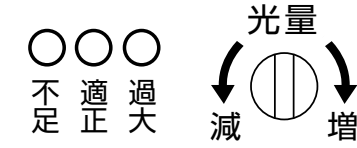


●足場の悪い場所での結線作業の場合、引っ掛け金具(付属)で本体を取付板の引っ掛け穴に吊り下げた状態で結線を行ってください。
〔結線終了後は、引っ掛け金具(付属)を取りはずしてください。〕



② 受光量調整 (カバーを付けずに行います。)

- 受信機の予備電源用バッテリーを取りはずす。
- 距離設定スイッチを監視距離に応じて設定する。**表2** 参照
- モードスイッチAを「上」側、モードスイッチBを「下」側にする。**表1** 参照 (受光量表示ランプのいずれかが点滅します。)
- 受光量表示ランプの適正ランプ(緑)が点滅するように光量調整つまみをまわす。



(不足ランプ(赤)点滅のときは右(増)へまわす。)
(過大ランプ(赤)点滅のときは左(減)へまわす。)

●光量調整つまみを右へいっぱいにもわしても不足ランプが点滅する場合は、光軸が正確に調整されていないので調整し直してください。

③ 動作確認 (カバーを付けずに行います。)

- モードスイッチA、モードスイッチBを「上」側にし、動作表示灯(緑)が点滅することを確認する。**表1** 参照
- モードスイッチAを「下」側、モードスイッチBを「上」側にする。**表1** 参照
- ②の操作後、1分以内に確認灯(赤)が点灯し、受信機が動作することを確認する。
●③の操作時に受光量を正常に計測できることを確認しますので、光軸をさえぎったり、本体を揺らしたりしないでください。

④ 初期設定 (設定中にカバーを取り付けます。)

- モードスイッチA、モードスイッチBを「上」側にする。**表1** 参照
- ①の操作後、約5秒以内に受光部のカバーを取り付ける。
●カバーを本体にかぶせながら各スイッチを設定すると、容易にカバーが取り付けられます。
●約5秒以内にに取り付けられなかった場合は、再度、モードスイッチAを「上」側、モードスイッチBを「下」側に設定し、受光量表示ランプの適正ランプ(緑)が点滅することを確認した後、①の操作からやり直してください。
●カバーのネジ止め作業は、①の操作から約30秒経過後から行ってください。

初期設定は、①の操作から自動的に始まりその後約30秒間で完了します。
●①の操作後(約30秒間)に受光量の初期値を設定しますので、約30秒間は光軸をさえぎったり、本体を揺らしたりしないでください。

■異常時の点検・処置

※下記の処置を行っても正常にならない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。



●この商品に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。
異常を放置すると火災時に警報がでないため、避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

状 態	点 検	処 置
光軸調整時、受光部の光軸調整用ランプ(赤)が点滅しない。	バッテリーが接続されているか？ バッテリーの電圧が下がっていないか？ モードスイッチの設定が間違っていないか？	外部電源接続用コネクタにバッテリーを接続する。 バッテリーを十分に充電する。(バッテリー電圧DC24V以上) モードスイッチA、モードスイッチBを「下」側に設定し直す。
光軸調整時、送光部の光軸調整用ランプ(赤)が点滅しない。	受光部・送光部間の配線が断線または短絡していないか？	配線をし直す。
受光量調整時、光量調整つまみをどこにもわしても受光量表示ランプが不足となる。	距離設定スイッチの設定が間違っていないか？ 受光部・送光部間の配線が断線または短絡していないか？ 光軸がずれていないか？ 光軸がさえぎられていないか？(虫なども含む。)	距離設定スイッチC、距離設定スイッチDを設定し直す。 配線をし直す。 光軸調整をし直す。 障害物を取り除く。
受光量調整時、光量調整つまみをどこにもわしても受光量表示ランプが過大となる。	距離設定スイッチの設定が間違っていないか？	距離設定スイッチC、距離設定スイッチDを設定し直す。
受光量調整時、受光量表示ランプが点滅しない。	モードスイッチの設定が間違っていないか？	モードスイッチAを「上」側、モードスイッチBを「下」側に設定し直す。
動作確認を行っても動作しない。	受信機からの電源・受光部の赤・白のリード線間の配線が断線または短絡していないか？ モードスイッチの設定が間違っていないか？ 受光部・送光部間の配線が断線または短絡していないか？ 光軸がずれていないか？ 光軸がさえぎられていないか？(虫なども含む。)	配線をし直す。 モードスイッチAを「下」側、モードスイッチBを「上」側に設定し直す。 配線をし直す。 光軸調整および受光量調整をし直す。 障害物を取り除く。
トラブル表示が出る。	距離設定スイッチの設定が間違っていないか？ カバー前面やレンズに過度の汚れはないか？	距離設定スイッチC、距離設定スイッチDを設定し直す。 カバー前面やレンズの清掃を行う。
何もしていないのに動作してしまう。	受光部・送光部間の配線が断線または短絡していないか？ 光軸がずれていないか？ 光軸がさえぎられていないか？(虫なども含む。)	配線をし直す。 光軸調整および受光量調整、動作確認をし直す。 障害物を取り除く。
	モードスイッチA、モードスイッチBを監視(「上」側、「上」側)に設定した後、距離設定スイッチC、距離設定スイッチDの設定を変更していないか？ モードスイッチの設定が間違っていないか？ リモートチェックスイッチがONになっていないか？ 受光部・送光部間の配線が断線または短絡していないか？ 光軸がずれていないか？ 光軸がさえぎられていないか？(虫なども含む。)	再度、受光量調整および動作確認をした後、モードスイッチを監視に設定する。 モードスイッチA、モードスイッチBを「上」側に設定し直す。 リモートチェックスイッチをOFFする。 配線をし直す。 光軸調整および受光量調整、動作確認をし直す。 距離設定スイッチC、距離設定スイッチDを設定し直す。 カバー前面やレンズの清掃を行う。

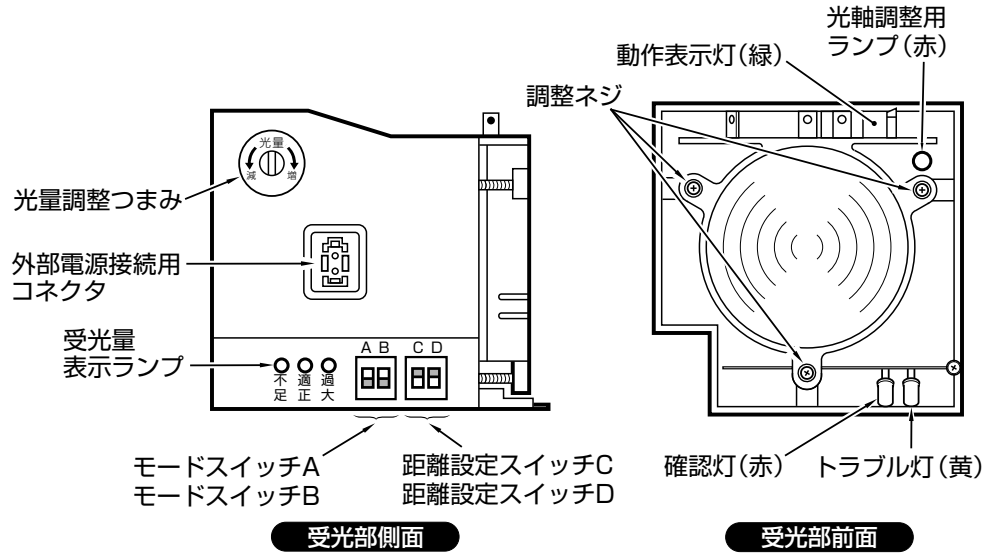
■仕 様

定格電圧・電流	24V 100mA
使用周囲温度	－10° C ～＋50° C
質 量	受光部：1.1kg 送光部：1.0kg

取付後の調整・動作確認

●必ず受信機の電源を「ON」にしてから行ってください。

① 光軸調整 (カバーを付けずに行います。)



■モードスイッチA、モードスイッチBの設定内容について

表1

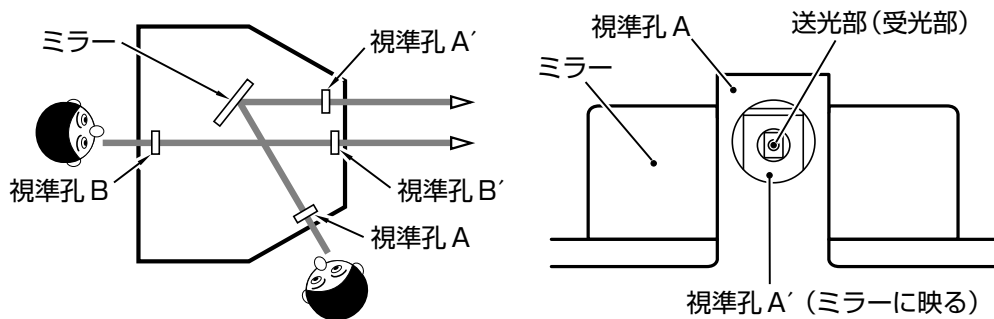
モード	モードスイッチA	モードスイッチB
監視	「上」側	「上」側
火災試験	「下」側	「上」側
受光量調整	「上」側	「下」側
光軸調整	「下」側	「下」側

■距離設定スイッチC、距離設定スイッチDの設定内容について

表2

監視距離	距離設定スイッチC	距離設定スイッチD
5～10m	「上」側	「上」側
10～25m	「上」側	「下」側
25～50m	「下」側	「上」側
50～100m	「下」側	「下」側

- 外部電源接続用コネクタに受信機の予備電源用バッテリー(DC24V,225mAh以上)を接続する。
●光軸調整時に、P型2級受信機(NBP234AK05・NBP235AKA0□など)に同梱されている予備電源用バッテリー(DC12V600mAh)は使用できません。光軸調整時には、DC24V225mAh以上の予備電源用バッテリーを使用してください。
- モードスイッチA、モードスイッチBを「下」側にする。**表1** 参照 (送光部・受光部とも光軸調整用ランプ(赤)が点滅します。)
- 受光部の視準孔A・ミラー・視準孔A'を通してその先に送光部が中心にくるように調整ネジをまわして調整する。
●天井取付の場合、天井取付用金具(光電式分離型感知器用)(NSY407)(別売)のウラ板をはすし、視準孔B-B'を使用しても調整できます。



- 送光部からも同様に調整ネジをまわして光軸調整を行う。
●光軸調整後は、送光部のカバーを取り付け、カバー固定ネジで固定する。
※「取付方法」(表面)参照